

# 目標設定シート (2009年度)

## 部局と評価項目・要素

対象部局	経済学部
<b>大項目</b>	<b>6 教育内容・方法・成果</b>
<b>中項目</b>	<b>6.3 教育方法</b>
<b>小項目</b>	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
<b>要素</b>	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
<b>小項目</b>	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
<b>要素</b>	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
<b>小項目</b>	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
<b>要素</b>	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
<b>小項目</b>	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
<b>要素</b>	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## ○2009年度からの目標

1. 少人数教育を推進するために、研究演習の1ゼミ当たりの人数を現行水準よりも引き下げる。また、大人数講義を複数クラスに分け、1クラスの履修者数を教室定員以内に抑える。
2. 学生の研究発表（例、エコノフェスタ）を定期的に開催し、その成果を社会に公表する。
3. 大学院生や研究員をTA（Teaching Assistant：ティーチングアシスタント）、そして学部3・4年生をLA（Learning Assistant：ラーニングアシスタント）とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。
4. 初年次教育部会を設置し、FD（Faculty Development：ファカルティデヴェロップメント）の一環として、初年次導入教育におけるカリキュラム、授業運営、教育指導のあり方などを点検・評価し、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。
5. FD委員会主催の授業改善のための研修会を継続し、授業評価アンケート、教育成果の測定方法、および授業改善方法の適切性などについて点検・評価を行い、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。

## ○指標

1. 研究演習の定員数。大人数講義科目のクラス数と履修者数。
2. 学生主体の研究発表会の開催数とその成果報告数。
3. チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。
4. 改善による教育への効果の初年次教育部会での評価・点検とその公表。および、1年生対象の基礎学力検査の実施とその結果公表。
5. 学部FD活動による教育改善への効果の評価・点検とその公表。および、学部上級生（3・4年）の経済学専門能力検査の実施とその結果公表。